

議長（竹島ユリ子君） 1番 野村信夫君。

1番（野村信夫君） 1番の野村信夫です。よろしくお願いします。

私は、通告書にありますように、高齢者の火災予防について質問します。

村は、安心・安全なまちづくりを総合計画に掲げ、取り組みをしています。近年では、地震による被害が多く発生しております。どこの自治体でも地震対策に取り組んでいますが、もっと身近に火災という災害があります。

住宅用火災警報器の義務化により、火災の防止対策はなされてきましたが、高齢者に対する対策も必要だと思われれます。個人差はあるものの高齢になると注意力が散漫になり、行動が鈍くなるのが一般的です。火災時の高齢者の逃げ遅れによる焼死は、よくニュースなどで報道されています。きょうも新聞のニュースで、朝日町のほうで高齢者の方が2人けがをされたというニュースが出ておりました。

そこで私は、65歳以上の高齢者が1人もしくは2人で暮らしている世帯に、自動消火装置を補助したらどうかと思います。

火災は初期消火が重要だと言われています。火災の原因は暖房器具等によるものもありますが、暖房器具は時期が限られます。家庭の台所のコンロは年間を通して利用するものであります。そこでこの消火装置を取りつけたらどうかと思います。

この装置は、家庭の台所のコンロの上60センチから1メートルの高さに取り付け、95以上の熱を感知すると、自動的に消火用の薬剤を噴射するものであります。換気扇用とダクト用の2種類があり、換気扇用は約10秒間、ダクト用は約5秒間薬剤が噴射されます。価格もダクト用はちょっと高いそうですが、約1万円程度で購入できると聞いております。近隣でも導入している自治体もあり、高齢者の安心・安全のため自動消火装置を補助してはどうかと思いますが、村長のお考えをお伺いします。

以上です。

議長（竹島ユリ子君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 1番野村議員のご質問にお答えいたします。

日本では毎年約6万件の火災が発生しております。原因の主なものといたしましては、放火、コンロ、たばこ、ストーブによるものが毎年上位を占めているところでございます。放火を除いては、本人による火の不始末が火災原因の主なものと考えられるため、火災を防ぐ第一の方法は、まず日ごろから防火に対する意識をしっかりと持ち、火の始末を徹底することに始まると思っております。しかし、だれもがうっかりすることはあります。

そのうっかりを早期に発見し、火災を未然に防ぐことが非常に大切なことでもあります。

本村では、昨年5月末に設置が義務づけられました住宅用火災警報機の設置状況について調査を行ったところ、既存住宅の約6割で設置が確認されました。今後、未設置の世帯に対し、火災報知器の必要性をさらにPRし、全世帯に普及するよう啓発してまいり所存であります。

野村議員ご提案の自動消火装置につきましては、コンロを原因とする火災には有効と考えますが、冒頭に申し上げたとおり火災にはさまざまな要因があります。高齢者宅の火災予防につきましては、これらの要因を含めまして総合的に検討してまいりたいと考えております。

また、火災だけでなく、高齢者の安否確認にも有効な緊急通報システムの普及促進を進め、高齢者世帯やひとり暮らし高齢者に対する安全確保にも努めてまいりたいと考えております。

一度火が起きてしまえば、簡単に消すことは困難であります。小さな炎が、自分の命だけではなく、家族や財産すべてを奪ってしまう恐ろしい火災を未然に防ぐことが一番大切であります。村民の皆さんが安全を守るため防火に対する意識向上として、火災予防の啓蒙活動を今後一層推進してまいりたいと考えております。

どうか皆さん方のご理解をいただきまして、今後とも火災のないむらづくりに努めてまいりたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。